

地域材を用いた仮設住宅の建築

久慈地域の野田村内で、地域材を用いて建築された仮設住宅の見学を、平成23年6月20日に、行ったので紹介します。

1 地域材利用

久慈地域の設計者、工務店、森林組合、製材工場が協力して、地域材を多用した仮設住宅を建築しました。製材品については南部アカマツ振興センターの参画工場が中核となり、製造を行いました。

2 住宅の仕様

- (1) 住宅は9坪(2DK)を基本とし、50戸を建築しました。
- (2) 構造、内外装に用いた木材量は、50戸分で、約500m³となり、木材はすべて、県北広域のものです。(床、壁材は1600m²(厚12mm)、構造材470m³)
- (3) 断熱材としてのオガ粉を袋詰めしたもの(かさ比重200kg/m³)を用いており、その総量は、50戸分で、総量360m³(丸太換算で120m³)となっております。

3 今後の展開

南部アカマツ振興センターでは、これまで、地域材利用のネットワーク形成に取組み、構築してきた製造・販売体制が活かされ、この度、仮設住宅の建築が行われました。

今後、復興住宅の建築を通し、地域材利用の推進が期待されます。



写真1 仮設住宅の概観(外壁スギ)



写真2 居間(床板アカマツ、腰板スギ)



写真3 キッチン(床板アカマツ、腰板スギ)